

平成 24 年度

「外部有識者会議」報告書



平成 25 年 3 月
福井工業高等専門学校

まえがき

本校の外部有識者会議は、本校の教育研究目標計画、自己評価その他学校運営に関する重要事項について学外有識者に審議、評価をお願いし、また、助言・勧告をいただくために設けられており、これまで本校にとって大きな役割を果たしてきた。

今年度は、全国の国立高専が一つにまとまって法人化してから9年目に当たる。5年ごとに策定される中期目標・計画期間の第一期目を終え、第2ステージの4年目を迎えている。

我が国に未曾有の被害をもたらした東日本大震災とそれに引き続く福島原発事故は、2年経った今も被災した人々に不自由な生活を強いりだけでなく、国民生活や産業活動全体に大きな影響を与えていている。

本校では、平成20年度から校舎の全面改修工事に着手し、これまでに本館、機械工学科棟、電気電子工学科棟、物質工学科棟、管理棟及び環境都市工学科棟の工事が完了した。今年度の国の補正予算には、図書館及び地域連携テクノセンターの改修が盛り込まれており、近く工事に取りかかる予定である。

また、昨年秋には、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審した。

このような状況の中、平成25年3月に平成24年度外部有識者会議を開催し、各委員から貴重なご意見、ご提言をいただいた。

今回いただいたご意見、ご提言については、学校関係者一同しっかりと胸に受け止め、今後の福井高専の運営や活動にできるだけ反映させていくよう努めたい。

ご多忙の中、福井高専のために色々とご尽力賜りました委員の方々に厚くお礼申し上げます。

福井工業高等専門学校長
池田大祐

目 次

まえがき

I . 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則	1
II . 外部有識者会議委員名簿	2
III . 本校出席者名簿	3
IV . 外部有識者会議日程	4
V . 講評	5
VI . 参考資料	11
・ 概要説明資料	
・ 教務関係	13
・ 学生指導関係	17
・ 睽務関係	20
・ 専攻科	24
・ 企画関係	27
・ 自己点検・評価関係	30

I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則

平成16年5月13日規則第21号

改正 平成16年 6月 3日規則第23号 平成19年 2月 1日規則第 1号
平成21年 3月30日規則第2号

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校外部有識者会議（以下「会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 会議は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

(組織)

第3条 会議は、10人以内の委員で組織する。

- 2 委員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 会議の議長は、委員の互選により定める。

(会議の開催)

第5条 会議は、校長が招集する。

- 2 会議は、年1回以上開催するものとする。
- 3 会議は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(守秘義務)

第6条 委員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、総務課が処理する。

附 則

この規則は、平成16年5月13日から施行する。

附 則（平成16年6月3日改正）

この規則は、平成16年6月3日から施行する。

附 則（平成19年2月1日改正）

この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則（平成21年3月30日改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

II. 外部有識者会議委員名簿

(高等教育機関の教員等及び経験者)

にい はら こう いち
新 原 眩 一 長岡技術科学大学長

(高等教育機関の教員等及び経験者)

いわ い よし ろう
岩 井 善 郎 福井大学工学部長・工学研究科長

(本校の所在する地域の教育関係者)

うち だ ただし
内 田 貞 鮫江市小中学校校長会会長
(鮫江市中央中学校校長)

(地方自治体等研究機関の研究者等)

かつ き かず お
勝 木 一 雄 福井県工業技術センター所長

(産業界の有識者)

の むら かず え
野 村 一 榮 鮫江商工会議所会頭

(産業界の有識者)

よし だ のり ふみ
吉 田 紀 史 信越化学工業(株) 武生工場長

(報道機関の有識者)

やま した ひろ み
山 下 裕 己 (株) 福井新聞社 論説主幹

III. 本校出席者名簿

役 職	氏 名	備 考
校 長	池 田 大 祐	
教務主事（副校長）	上 島 晃 智	(物質工学科教授)
学生主事（副校長）	藤 田 克 志	(機械工学科教授)
寮務主事（副校長）	坪 川 武 弘	(一般科目教室教授)
企画室長（副校長）	田 中 嘉津彥	(機械工学科教授)
専攻科長（校長補佐） JABEE委員長	阿 部 孝 弘	(環境都市工学科教授)
自己点検・評価委員長	大久保 茂	(電気電子工学科教授)
機械工学科長	加 藤 寛 敬	
電気電子工学科長	川 本 昂	
電子情報工学科長	斎 藤 徹	
物質工学科長	常 光 幸 美	
環境都市工学科長	廣 部 英 一	
一般科目教室 (自然科学系)主任	長 水 壽 寛	
一般科目教室 (人文社会科学系)主任	廣 重 準四郎	
図書館長	小 寺 光 雄	(一般科目教室教授)
創造教育開発センター長	津 田 良 弘	(物質工学科教授)
総合情報処理センター長	蘆 田 昇	(電子情報工学科教授)
地域連携テクノセンター長	吉 田 雅 穂	(環境都市工学科教授)
教育研究支援センター長	山 田 幹 雄	(環境都市工学科教授)
事務部長	根 本 直 之	
総務課長	米 内 治	
学生課長	清 水 久 己	

IV. 外部有識者会議日程

1. 日 時 平成25年3月14日（木）13：30～17：15

2. 場 所 福井工業高等専門学校 管理棟2階 大会議室

3. 会 議 次 第

一 開 会

一 校長挨拶

一 出席者の紹介

一 議長選出

一 議 事

1. 本校の概要等説明等

— 休憩 —

2. 全体討論・質疑応答

— 休憩 —

3. 講評・提言

一 校長謝辞

一 閉会

4. 資料

① 平成23年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言

② 福井工業高等専門学校 平成24年度 年度計画進捗状況

③ 概要説明資料

<参考資料>

- 自己点検・評価報告書
- 学校要覧 2012
- 学生便覧（平成24年度版）
- シラバス（本科、専攻科）（平成24年度版）
- 福井高専の歩き方 －2013 College Guide－
- 専攻科パンフレット 2012
- J O I N T 2012 －地域連携テクノセンター活動紹介誌－
- 女子中学生向けパンフレット「みんなで高専しよう！」

V. 講評

[新原委員]

今なぜ、高専が世の中から注目され、国家戦略会議の場に置いても、高専を増やせという意見が出始めているくらい、いろいろな教育という面において素晴らしい活躍をされている。

ただ、注意していただきたいのは、高専の高度化、ということが求められているかと思いますが、高専の高度化、大学の高度化、世の中の高度化では意味が違います。そのところをしっかり議論していただきたい。特に、基礎についてはしっかりやっていただきたいと思います。

また、国際化ですが、英語は学問としてではなく、一つのツールとして教え込むことが必要となってきております。英語は好き嫌いではなく、必要なものとして、高専で教える義務が今後さらに必要となってくると思いますので、その体制を今から少しづつ作り上げる努力が必要ではないかと思います。

最後に、高専の学生は高専に対し誇りを持っておりますが、さらに自分に自信を持って前に進み、伸びていく学生になっていただきたいと思います。



長岡技術科学大学
学長 新原 眞一 氏

[内田委員]

小中学校の現場は多忙化がもう日常のようになっており、それ以外のことにも多くの時間を取りれているという現状です。我々の本務は「本当は子供たちの興味のある授業をすること」、それが本来の仕事であるはずです。

本会議の膨大な資料を拝見する限り、福井高専も同様だと思います。これらを開けるため日々考え、努力して頂きたいと思います。私どもは、「例えば、ルーチンワークの考え方を切り分けるようなこと等」、種々方策を考えていることをお伝えして、私の意見とします。



鯖江市小中学校校長会
会長 内田 貞 氏

[勝木委員]

あまりに忙しく先生がなってしまっては、学生の前で先生が輝いていない、という状況が出来てしまうと諸問題が発生するという危惧をします。私の学生時代の尊敬する先生は輝いている先生、教えているときに楽しそうに教える先生、喜んで教える先生、教えることが好きでたまらない、といった輝いている先生から教えてもらったことが一番自分の身になったという体験を持っています。是非、学生の前で輝いている先生になるような取組をしていただきたいと思います。

もう一つは、県内企業に学生さんが行っておられるわけですが、立場上、県内企業をみるにあたり、研究機関も教育機関もそうですが、やはり創造性が足りない。その結果、県内企業に技術者を出している高専にかける期待があまりにも大きくなっていることになると思います。県内の企業も頑張っているところがたくさんあります、そういうところの生業を是非みる機会を増やしていただきたいと思います。

当工業技術センターにおいて、県内企業六十数社の技術、製品を解説付きで展示しており、県内企業が今何を作っているか、何を開発しているか見れるようになっていますので、利用していただけたら幸いです。



福井県工業技術センター
所長 勝木 一雄 氏

[野村委員]

相対的に、なにも申し上げることはなくすばらしいと思います。

それで、ものづくりの教育の中で、これからものづくりというのは、差別化商品をいかに作るかということでございまして、その教育の中で、今ほど話がありましたように創造力、発想力を身につけるような教育をさらに付け加えていただけると非常にありがたいと思います。



鯖江商工会議所
会頭 野村 一榮 氏

[山下委員]

昨年の委員からの意見を反映しようとす
る努力がみられ、高く評価するところであ
ります。

高専は中学卒の子が入学し、短大・大学生
くらいまでの生徒が在籍していますが、一般
の高校とも大学とも違うところでもあり、個
性を発揮できるポジションであります。高専
だからできる新たな試みとか、色づけを検討
していただき、取り組んでいただければと思
います。



(株)福井新聞社

論説主幹 山下 裕己 氏

[岩井議長]

毎年このような自己点検・評価をされて
いることに評価をさせていただくとともに、
敬意を表したいと思います。昨年、本委員会で提言した事項に対して、しっかり対応
されていることの説明を伺い、この自己点
検・評価のP D C Aサイクルが極めてうま
く回っていると各委員の方々から伺いました。
私もそのように思います。

特に優れている点としては、今、15歳
人口の減少の中で、入学者を常に確保する
というのは、これは学校にとってたいへん重要
なことであって、そのターゲットとして女子
学生に焦点を絞られ、色々な取り組みをされているということに対して大変感心しています。
今後、入学された女子学生が上手に育って、決して内向きということでは意味ではありませんが、地元のために彼女たちが働いてもらえると非常にありがたい。そのためには、インターネ
ンシップを地元の企業で行うと、地元の企業、あるいは商工会議所と協同して、そういう
取り組みをされると非常に良いのではないかと思います。彼女たちが今後、地域貢献されて
いくことを大いに期待しております。

一方、福井高専が、国立高等専門学校機構の中で一本化されることによって、様々な
制約がでてくるとしたら、そこをどうやって個性を出していかかということが非常にこれから大事になるのではないか。そういう意味では、メガネのデザイン、あるいは医療、伝統工
芸、先ほどの女子学生の獲得に向けて、ある意味では そういう基盤があると思えますので、



福井大学 工学部長・工学研究科長

岩井 善郎 氏

そういうものを何か福井高専の特色に活かされると非常に良いと思います。「福井高専の○○」、「○○の福井高専」と呼ばれるといった特色と強みを、これを、これからどう積み上げていくのか、是非ともそういう視点を持っていただけだと良いのではないかと感じます。

一方、高専生がいったい何を5年間あるいは7年間で身につけるのかということに対する取り組みというのは、常に、一番最初の、原点に戻って考える必要があるのかなと思います。福井大学においても「グローバル人材育成推進事業」に採択されて、今、学生たちを海外にインターンシップに送り出したり、英語の授業を増やす、といったことや、新原委員のお話の中にもあったように、TOEICの点数を目標値を掲げて、やる、というようなことを始めておりますけども、その中で、言われていることは、グローバル人材は決して英語ではありませんよ、つまり、日本人としてのアイデンティティを持ち、異文化を理解できる、そういう学生を育てる、それがグローバルですよ、といわれるのですが、それは余りにも高い目標であって、全部をそれに求めると、いったいどんな学生を育てなければいけなかつたのか、という意味では、非常に焦点がぼやけてくる可能性が今後あるような気がします。これは高専だけでなく、大学を含めて、いろいろなところで、自分たちのミッションを、自ら再定義するということが必要ではないかと思います。

今回の自己評価の中で、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学との連携もそうであるよう、近隣の大学との連携、というのもこれからひとつつの高専の支援材料としていただければ、お互いがWin・Winの関係になれるのではないかと思います。というのは、今どこの研究機関でも、多分、若手の人材育成というのは非常にご苦労されていると思います。その一方、高専でも各研究室単位となっていると聞いておりますし、大学でも昔のような講座制が無くなっています。一方、教員のキャリアアップということでいえば、やはり教育のスキルアップ、経験も必要ですけども、研究実績というのも必要であることは間違いないと思います。そういう意味で、是非、近隣の大学の先生と分野が近い先生におかれでは、共同研究等積極的にされることが、ある意味では先生方のキャリアアップに繋がり、教育研究力のアップにも繋がると思います。

最後に、新原委員のお言葉を借りると、福井高専のポテンシャルも高いし、やっていることも大変すばらしい、その中で、先生方が是非、いつまでも元気を持ってやれるような仕組みというか、あまり縛め付けのない自由さ、あるいは、内田委員がおっしゃったようなスクラップアンドビルト、そういうことも是非お考えいただいて、これから益々発展していくことを祈念いたしまして、講評とさせていただきます。

VI. 參 考 資 料

教務関係



沿革

昭和40年 福井工業高等専門学校設置
(機械工学科、電気工学科、工業化学科)

昭和45年 土木工学科を増設

昭和63年 電子情報工学科を増設

平成5年 土木工学科を環境都市工学科に改組

平成7年 工業化学科を物質工学科に改組

平成10年 専攻科(生産、環境システム工学の2専攻)

平成17年 電気工学科を電気電子工学科に改称

現在: 機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、

物質工学科、環境都市工学科

生産システム工学専攻、環境システム工学専攻

卒業・修了生:本科 6,982名、専攻科 372名 (平成24年度末)

在籍学生数:本科 993名(176名)、専攻科 52名(7名) 福井高専

基本理念

- 創造性豊かな人材を育成する。
- 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。
- 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。
- 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。
- 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。



教育方針

- 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
- 個性を伸張し、独創的能力の開発に努力する。
- 教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する。
- 健康の増進に努め、身体的精神的に強靭な耐久力を育成する。
- 規律ある日常生活に徹し、明朗、闊達な資性の涵養を図る。



養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え、

国際社会で活躍できる技術者



本科(準学士課程)学習・教育目標

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

RB 数学とその他の自然科学、および専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。

RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。



**専攻科「環境生産システム工学」
学習・教育目標**

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
 JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
 JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
 JD 國際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
 JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。

教務関係の取組(平成17~24年度)

- 平成17年度：工学基礎コース制度開始
：大学評価・学位授与機構構築別認証評価受審
- 平成18年度：100分授業開始・学修単位の導入
：JABEE中間審査受審、学習到達度試験開始
- 平成19年度：創造教育開発センターの設置
- 平成20年度：50分・7限体制開始、校舎改修工事開始
- 平成21年度：JABEE最終審査受審、校舎改修工事完成
新型インフルエンザへの対応
- 平成22年度：達成度評価の導入
- 平成23年度：特別支援室の導入、国際交流の活性化
- 平成24年度：認証評価・JABEE中間審査を受審

教育制度改善とPDCAサイクル

- ・基本理念、学習・教育目標の制定
- ・アドミッションポリシーの制定
- ・シラバスの充実
- ・エビデンス(成績評価資料)の保管
- ・学生アンケート(授業・教育環境)等の定期的実施
- ・FD活動の充実、公開授業の実施
- ・教育点検評価システムの確立
- ・達成度の自己評価

福井高専(本科)の教育の特長

- ・くさび形教育(専門科目が学年と共に増加)
- ・担任がきめ細やかに指導
- ・体験型科目(実験・実習・演習・制作科目)やITスキルに関する教育が充実
- ・1年:混合学級(内1クラスは転学科可能な工学基礎コース)
転成科目としての「ものづくり科学」の導入
- ・2~5年:学科に分かれ工学・理系の基礎と実践力並びに問題解決能力を身につける。

M 機械工学科 E 電気電子工学科 EI 電子情報工学科
C 物質工学科 B 環境都市工学科

福井高専のものづくり・環境づくり教育

確かな卒業後の進路(就職・進学)と実績
(高い就業率、卒業率は各専門上位進入)

創造性と実験力を育む
体験型授業

知識を決める
キャリア教育

ものづくり・環境づくり
実践野外活動部会

<2~5年> 實践的専門教育
専門基礎能力、実験研究能力、実践的専門技術の獲得
→ 実験的体験型教育
実験、育成、コンピュータ演習
実践的教育(創造工学演習等)

<1年> 専門導入教育
→ 「ものづくり科学(創造教育)」「基礎」

教務関係の取組(平成24年度)

- ・ 厚生人材育成教育の実績
新年度登録に文部科学省の厚生人材育成プログラム
- ・ 長岡技術大との協働教育事業実績
相続的技術者育成マハンドーストコースとの連携強化
- ・ 教職員認証評議・JABEE中間審査受審
審査すべき入学者の創定、達成度評価シート等の活用
- ・ 特別支援教育への対応
特別支援教育を抜かり無運用を開始(適用事例:3名)
- ・ 認定厚生人材育成ためのプログラム
高等機械の特別研究結果で育成支援
企業人材活用プログラムの実施
- ・ 球技文化活性化における取り組み
タイ・ソンクラー大学との交流協定に向けた取り組み
海外からの短期留学生の受け入れ

**経済産業省と文科省の「原子力人材育成プログラム」
福井高専原子力地域人材プログラム**

<原子力関連機関・大学等と連携した共同教育プログラム>

- ①エネルギー校外研修
- ②インカーンシップ
- ③特別講義
- ④特別講演会
- ⑤出前授業
- ⑥フォーラム

原子力分野への就職状況

就職場	20年	21年	22年	23年
電力会社	4	6	10	12
原子力発電会社	2	1	2	3
その他	10	8	15	18

研修風景:若狭湾エネルギー研究センター

入試関係の取組(平成24年度)

- 入試に関する新入生へのアンケート調査
 - ◎不況に強い高専！進学に有利な高専をアピール
- 入試会場の整理統合
 - 戸原会場の福井会場(オッサ)への統合
- 志願者確保のためのPRの活性化
 - カレッジガイドのデジタル化・インフラ化
 - 学生視点の情報発信サイトの新設
 - 女子中学生向けのPRパンフレット作成
- 入試開催行事の見直し
 - オープンキャンパスの実施(5~8・10月)
 - 女子中学生対象の理科系啓発イベント継続

入試行事①:キャンバスウォーク

5月12日(土):スタンプラリー形式校舎・施設の見学会

参加:計480名(生徒296名)

KOSEN キャンパスウォーク オープンスクール

5月12日(土) 10時~14時

会場:福井高専

入試行事②:キャンバスツアー(体験入学)

8月4日(土):学科紹介・体験コーナー、交流コーナー

参加者:計726名(生徒467名)

入試行事③:キャンバスリサーチ(学科別体験)

10月6日(土):各学科別に1時間の体験学習会

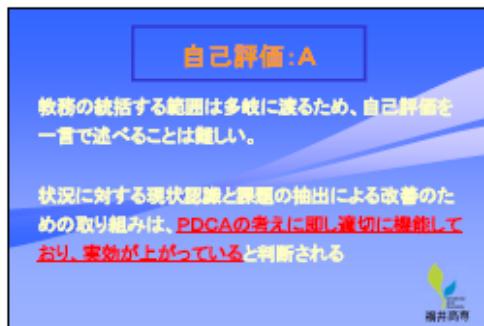
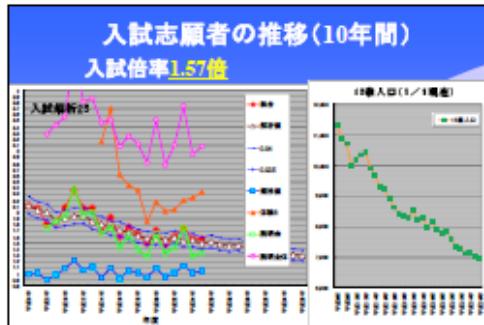
参加生徒:計161名

入試行事④:入試説明会

10~11月 福井県内 13回、滋賀県内 5回実施

その他:各中学校主催の説明会に参加(14校)

参加者:計616名(生徒269名)



学生指導関係

学生指導の基本方針

- 毎日、規則正しい生活を送ること
- よき学生としてのマナー(社会規範)を身につけること
- 自ら考え、自ら進んで学ぶ姿勢を示し、真摯な態度で学業に取り組むこと
- 文化・芸術・スポーツに親しみ教養を高めること
- 自身の将来像を描き、その実現のために計画的に行動すること

学生と担任制度

- 学生生活全般の指導(友人関係、生活行動の指導
授業出欠の点検、健診観察、各種届け出の指導等)
- 学業成績、悩み等についての個別指導
- 特別活動の企画・実施(1年～3年)
- 学校行事の指導・企画・引率
新入生オリエンテーション(1年)、講足・交流会、校外研修(2年)、
工場見学旅行(3年)、インターンシップ(4年)
- 進路(就職・進学)指導
キャリア教育セミナー、就職セミナー、大学説明会など
- 保護者懇談会の実施(1年～5年)

担任制度の充実 (アクションプランⅠ-1-(5)-①)

- 担任制度の継続
 - 学生に対するきめ細やかな対応
 - 「平成24年度教員研修(クラス経営・生活指導研修会)」
来年度以降の担任予定者2名派遣
 - 「東海・北陸地区国立高等専門学校新任教員研修会」
来年度以降の担任予定者4名派遣、アドバイザー2名派遣
- 学年主任制度
 - 学年での情報交換、進路指導室との連携
 - キャリア教育活動の早期開始

担任制度の支援 (アクションプランⅠ-1-(5)-①)

- 学生生活サポートのための講演会
 - 1年生 → 服育講演会、性教育に関する講演会
 - 2年生 → 服育講演会、煙草の害に関する講演会
 - 3年生 → 服育講演会、交通安全に関する講演会
 - 4年生 → 楽物乱用に関する講演会
 - 5年生 → 税と年金に関する講演会



学生の指導(平成24年度) 全教職員で取り組んだ内容

- 校門指導・交通安全指導(駅前、学生駐車場)
→全教員、前期開始、後期開始(各約2週間)
- 校内巡視(節電パトロールを兼ねる)
→全教職員、定期試験前後(空き教室等の安全をチェック)
- 服育・安心安全の指導
→TPOにあわせた服装指導

学校行事①:様々な体験活動の継続

- ・新入生オリエンテーション(4月12、13日)
奥越高原青少年自然の家
伝統産業・地場産業体験



親交を深めあった新入生オリエンテーション

学校行事②:学生会活動の奨励

- ・体育祭 (4月27日)
- ・弁論大会(10月18日)
- ・高専祭 (10月19~21日)



福井市立

課外活動①:クラブ活動の奨励

(アクションプラン 1-1-(2)-(③))

クラブ数:体育系21サークル、文化系・両好会27サークル
学生加入数:約800名、顧問教員数:延べ92名

- ・H24年度北陸地区高等学校体育大会
機器:自体、男子テニス、女子ソフトテニス、女子卓球
個人、陸上(男子200m、男子5000m)、男子テニスダブルス、
水泳(男子100m平泳ぎ)、女子卓球ダブルス、女子剣道

・H24年度全国高等学校体育大会

男子テニス団体3位、男子卓球ダブルス準優勝

体育系各:陸上、水泳、野球、サッカー、ラグビー、バレーボール、バスケットボール、
テニス、バドミントン、ソフトテニス、卓球、ハンドボール、剣道、
柔道、ソフトボール、空手、少林寺拳法、合氣道

文化系各:吹奏楽、セダンミュージック、軍楽、サイエンスクラブ、ロボット研究会、
美術-骨格、美術、エレクトロニクス、デザイン研究会

福井市立

課外活動②:コンテストの奨励と支援

(アクションプラン 1-1-(2)-(④))

ものづくり・アイディアのかん養

ロボコン、ブロコン、デザコン、
機械きくロボットコンテスト、
小水力発電アイデアコンテスト
英語スピーチコンテスト等



福井市立

安全管理と施設の充実

- ・クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの改訂
& 年間練習計画の作成(H18年4月より)

- ・課外活動危険箇所調査と安全面を重視した環境の整備
AED(自動体外式除細動器)を学内4箇所に設置

製氷機の設置(保健室、体育館)

各種施設の改修および耐震化工事等

- ・クラブ活動の安全管理に関する講習
H17年~24年:

「AEDを用いた救急救命法実習」

平成24年度:学生39名参加



AED実習風景

福井市立

ボランティア関連

(アクションプラン 1-1-(2)-(⑤))

・ボランティア活動の奨励

- H24年9月: 佐賀県ボランティア
- H24年10月: 第9回クリーン大作戦
- H24年10月: 防災体験(防災リーダー)



福井市立

**メンタルヘルス関連
(アクションプラン1-1-(5)-①)**

- ・学生指導担当職員研究会の開催
 - 1121年7月：「脳波測定の実験と検証」
 - 1122年7月：「ストレスと上手に付き合おう」
 - 1123年9月：「ストレスと上手に付き合って心も体も健康!」
 - 1124年3月：「学生の脳波測定に関する研修会」
 - 1124年7月：「障害に対する基礎的知識と障害学生に対する教育実践の実践例」
- ・メンタルヘルス関連の充実
 - 1116年より毎年実施：学生指導実習アンケート(全学生)
 - 1119年度より外部の専門カウンセラーによる相談を週2回に拡充
 - 1120年度は、学習支援のためのプロジェクトチームを設立
 - 1122年度は、上記チームを実質的に増上げ

インターとしての保健室委員の増員
各種講習会派の積極参加



感染症対策の充実

- ・麻疹対応(H19～)

麻疹抗体検査と校費補助によるワクチン接種の勧奨
H23年現在、麻疹耐性率93%以上を確保
(学校組織として)
- ・インフルエンザなど感染症対応(H22～)

状況に応じきめ細かな対応
手指用消毒液の設置(校舎入口、教室前など)
教職員に対してはインフルエンザの予防接種を推奨など



**5年一貫教育の利点を生かした
人格形成の人間教育を実践**

- * 全教職員一丸となっての学生指導
- * 担任制度の充実
- * クラブ活動・学生会活動への積極参加
- * 各種コンテストへの参加奨励
- * メンタルヘルス・安全管理・施設の充実
- * ボランティア活動への自主的参加



寮務関係

福井高専学寮

学寮は「青武寮」と称し、南寮・北寮・東寮及び西寮の4棟からなる。男子寮として南・東・西の3寮、女子寮としては北寮が当たられている。定員は245名である。

学寮は遠隔地からの学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目的で設置され、全教員が交替で寮監として泊り、寮生との触れ合いを大切にする教育寮として位置付けられている。

管理運営組織

- ・学寮運営委員会(10名)
- ・寮務主事団(7名)
- ・学生課学生生活係(2名)
- ・寮監(平日2名宿直、休日1名宿直)
- ・寮生会役員(20名)
- ・寮内は11の区に分割して管理

寮生数

平成25年3月1日時点				
男子	女子	合計		
179名	39名	218名		
1年	2年	3年	4年	5年
53(9)名	52(13)名	34(6)名	43(7)名	36(4)名
福井県	滋賀県	その他の県	マレーシア バングラデシュ モンゴル	
140名	61名	10名	7名	



学寮の施設ー1ー

南寮…男子73名(1階は留学生が居住)

男子宿学生(24年度は7名)

調理室 シャワールーム (LAN,空調完備)
デューター居室



西寮…男子25名
(4人部屋と1人部屋)

学寮の施設ー2ー

北寮…女子39名(個室と2人部屋)

調理室 シャワールーム



東寮…男子81名(全室個室)



学寮運営の基本方針

1. 安心・安全な居住と良い学習環境の提供 (学寮の管理と質の維持)
2. 各寮生への個別の生活指導と寮生全体の自治と自主活動への支援 (生活指導と寮生会支援)
3. 國際交流への寮としての取り組みの推進、開かれた寮としての諸活動

1. 学寮の管理と質の維持

(1) 施設・設備面での充実 (今年度予算で)

- ◇ エアコンの設置のための電源工事
- ◇ 学寮食堂厨房機器の更新 (シンク・水切り台、冷蔵庫、スチームオーブン等更新)
- ◇ 南寮玄関防雨・防雪仮囲い
- ◇ 東寮・北寮自転車小屋増設
- ◇ 西寮北側渡り廊下屋根天井配管塗装 等

(2) 管理システムの改善

- ◇ 寮監と関係教職員との日常的な連携
- ◇ 夏の防災訓練の実施 (8/6)
- ◇ 救急救命講習会の実施 (12/4)

(3) 寮生保護者会の設立

2. 生活指導と寮生会指導

(1) 日常生活における教職員からの指導

- ◇ 寮監による毎日の点呼と巡回のシステム
- ◇ 寮生保護者懇談会と個人面談 (7/14)
- ◇ 寮内の清掃等の当番の確認 (当番表は寮生会)

(2) 寮生会が中心となる各種行事への支援

- ◇ 寮生総会 (年間数回)
- ◇ 寮祭 (寮生会最大のイベント、5/18～5/20)
- ◇ 短期留学生の歓迎会 (1/7)
- ◇ 球技大会、クリスマス会、5年生を送る会
- ◇ 寮生会誌「日野」の発行

3. 國際交流、開かれた寮としての活動

(1) 短期国際留学生の受け入れを実施

- ◇ 香港VTCから4名の女子学生を受け入れ
- ◇ 1月に1週間、チューターが3名、女子寮生の中で交流も行なった
- ◇ 受け入れの際のマニュアルを整備

(3) オープンキャンパス等での寮見学会の実施

- ◇ 3回実施、内1回は寮生による案内

今年度の行事

4月	開学式
	入室式・オリエンテーション
	新入寮生歓迎会
	学生会員選出会
	寮生活会議
5月	ナーブルマーケット(学年見学)
	学年会
	新入寮生歓迎会
	地元住民ニチニア(新規開拓会議)
6月	メンタルヘルス講習会(寮)
	学生会員・新規会員選出会
7月	消防訓練
	ナーブルマーケット(学年見学)
	新規会員登録・学生大相撲
	開業(新規会員)
8月	女子中学生と新規者のための体験学習(学年見学)
	開業
	新規会員

今年度の主な行事

(上段から) 新入寮生歓迎会、新規会員登録会、新規VTC(新規開拓会議会)、ナーブルマーカー講習会
(下段から) 新規会員選出会、新規VTC(新規開拓会議会)、ナーブルマーカー講習会

今年度の自己点検と評価 1

- 寮監と関係教職員との連携 (A)
 - ◇ 対面と寮監日誌による情報交換の実施
- 寮生の安全確保の取り組み
 - ◇ 消火栓放水を取り入れた防災訓練の実施、保存食と水の配布 (A)
 - ◇ 救急救命講習会の実施 毎年実施するもの (B)
- 国際交流の推進 (A)
 - ◇ 短期留学生の受け入れを今年度も実施
- 施設の改修等 (B)
 - ◇ 優先順位をつけて行なった
 - ◇ 改修すべき箇所もまだ多い

今年度の自己点検と評価 2

- 寮生会指導 (A)
 - ◇ 役員会を中心として予定していた企画を実施することができた
- 寮生指導 (A)
 - ◇ メンタルヘルス講習会を2回実施
 - ◇ 寮生アンケートでは概ね寮生活に満足

寮生アンケート

項目	回答	割合
寮生活満足度	満足	45%
	不満	30%
食事満足度	満足	24%
	不満	24%
施設満足度	満足	32%
	不満	24%

今後の課題と方策 1

- 寮生アンケートを参考に、良い学習環境の提供へ
 - ◇ 男子浴室の狭さ
 - ◇ 1年生の学習時間の確保、上級生からの支援
- 安全な寮生活の確保
 - ◇ 男子寮のセキュリティーあり方の検討
 - ◇ 寮生による自主防災組織の実質化
 - ◇ 防災訓練と救急救命講習会の実施
- 寮生会への指導と寮生指導
 - ◇ 寮生会役員と寮務主事団との懇談会
 - ◇ 寮生総会による全寮生への指導
 - ◇ 区長への支援

今後の課題と方策 2

4. エアコンの設置に伴う寮生の健康確保と寮生保護者会の運営協力
 - ◇ エアコンの利用の指導方針の策定
 - ◇ 寮生保護者会との緊密な連携



専攻科関係

専攻科の概要

- ・本科の上にある**2年制**の教育課程
- ・高等専門学校における教育の基礎の上に、清新な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。
- ・大学評価・学位授与機構における認定専攻科
- ・大学評価・学位授与機構の審査により**学士号**取得
- ・本科4、5年のカリキュラムを加えて、**技術者教育プログラム「環境生産システム工学」(JABEE認定プログラム: 融合・複合分野)**を実施

専攻科の概要

定員(1学年) 20名

生産システム工学専攻(12名)
出身: 機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科
環境システム工学専攻(8名)
出身: 物質工学科、環境都市工学科

修了要件

2年以上在学し、62単位以上の修得
「環境生産システム工学」の学習教育目標をすべて達成

専攻科の概要

在籍者数
1年生:27名 2年生:25名 計52名

修了者数
H23年度:27名 (JABEE修了:27名)

志願者数
H23年度:33名 H24年度:27名

H25年度入学予定数 21名

学習教育目標

目指すエンジニア像:得意とする専門分野を持つことに加え、他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有識的にデザインすることのできる知識と能力を身に付ける。国際社会で活躍できる実践的技術者】

学習・教育目標大項目

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
JB 教学とその他の専門科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対応できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
JE 美観的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。

将来計画

✓ 研究能力の向上

研究期間3年を使い、研究発表数を増加

✓ エンジニアリング・デザイン能力の向上

企業との連携による共同教育

✓ 社会のグローバル化に対応した人材の育成

語学能力と異文化理解能力の向上

✓ 専攻科入学者の質の向上

継続した7年一貫の技術者教育

<p>重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 目指すエンジニア像と学習・教育目標の周知 ✓ 他の研究機関との連携 福井大学大学院工学研究科との協定 ✓ カリキュラムや授業内容の改善 「創造デザイン演習」「単位増」「技術者英語コミュニケーション演習」「単位の新設」 ✓ 海外派遣活動への積極的参加 海外インターンシップ、技術英語研修 	<p>就職・進学</p> <p>求人倍率: 42.9倍</p> <p>就職先(県内就職: 8名、県外就職: 5名) パナソニックデバイス、レンゴー、松浦機械製作所、アボットジャパン、ALL CONNECT、丸一調査設計、福井高専、井関農機、小島プレス、日本原子力発電、KBセーレン、鴻池組、塩野フィネス、ヤマナミ</p> <p>進学先(8名) 北陸先端科学技術大学院大学、金沢大学大学院、名古屋大学大学院、福井大学大学院、豊橋技術科学大学大学院</p>
--	---

<p>カリキュラムの特徴</p> <p>一般科目6単位開講、4単位以上修得 専門共通科目33単位開講、25単位以上修得 専門履修科目45単位開講、33単位以上修得 11科目で各2~3回の授業の非常勤講師 (技術士、弁理士、NPO理事長、OBの起業家等) 北陸技術交流テクノフェアでの技術シーズ発表会 約1ヶ月のインターンシップ(1年生全員) H24年度 県内企業10社11名、県内官公序1名 大学院3名、県外企業10社11名</p>	<p>特徴的な授業</p> <p>特別研究 学外の技術者・研究者の前での発表 現代英語 外国人講師の前での英語プレゼンテーション (TOEICスコアアップに加えて)</p> <p>創造デザイン演習 エンジニアリング・デザイン能力の向上を目指す 問題発見、制約条件、複数案の提案 技術者と学生自らが接触する</p>
---	---

<p>H24専攻科年間行事</p> <p>4/ 4 専攻科オリエンテーション 4/19 特別研究中間発表会(専攻科2年) 5/26 専攻科推薦選抜 6/23 専攻科学力選抜(前期) 7/ 9 学位授与説明会(専攻科2年) JDream II 説明会(専攻科1年) 7/25 知財セミナー「特許法の本質とその活用」 10/11 インターンシップ報告会 10/18,19 北陸技術交流テクノフェア参加・発表 10/27 大学院説明会 11/23 専攻科学力選抜(後期) 12/16 学位授与機関小論文試験 2/ 2 第2次選抜試験 2/13 特別研究発表会</p>	<p>成果の発表</p> <p>技術シーズ発表会(北陸技術交流テクノフェア) (福井県企画会館)</p> 
---	--

海外へ

- ・ISTS2012
International Symposium on Technology for Sustainability 2012
- ・国立高専機構 平成24年度テマセク・ボリュニック技術英語研修
- ・「日本台湾包括学术交流協定締結記念 “2012 Japan-Taiwan Symposium on intelligent Green and Orange (iGO) Technology” (日台iGOシンポジウム2012)」
- ・平成24年度中部日本海高等国際化推進事業 KMITL学生派遣

校長への報告 福井高専

協定

- ・福井大学大学院
工学研究科と教育研究交流協定(4月1日締結予定)
- ・北陸先端科学技術大学院大学
推薦入学に関する覚書
- ・早稲田大学大学院
情報生産システム研究科と推薦入学に関する覚書
- ・福井県内大学及び短期大学
単位互換協定
- ・放送大学
単位互換協定

自己点検評価

- 目指すエンジニア像の周知及び本科との連携
専攻科入学希望者及び合格者数は前年度を下回った。本科生への専攻科のPR不足。評価はBと判断する。
- 他の研究機関との連携
福井大学大学院工学研究科との教育研究に関する協定を結ぶ予定。評価はAと判断する。

自己点検評価

- カリキュラムや授業内容の改善
エンジニアリング・デザイン教育及び語学力の向上のための改正を行った。評価はAと判断する。
- 専攻科生の海外研修
昨年度に比べ派遣学生数は多くなった。評価はAと判断する。

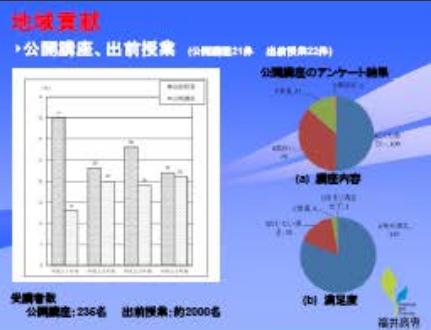
今後の方策

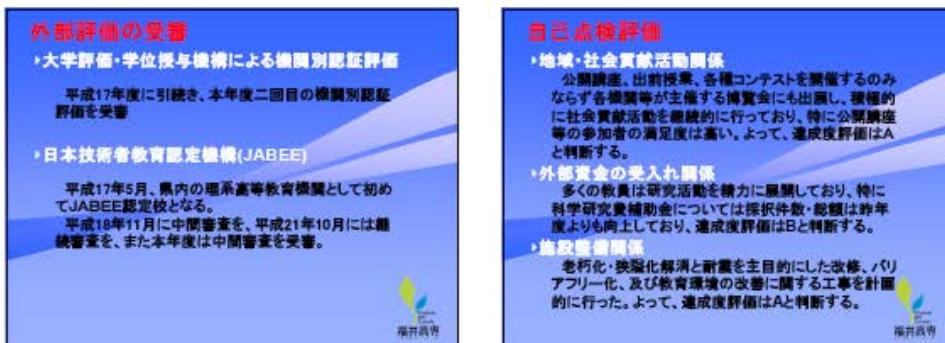
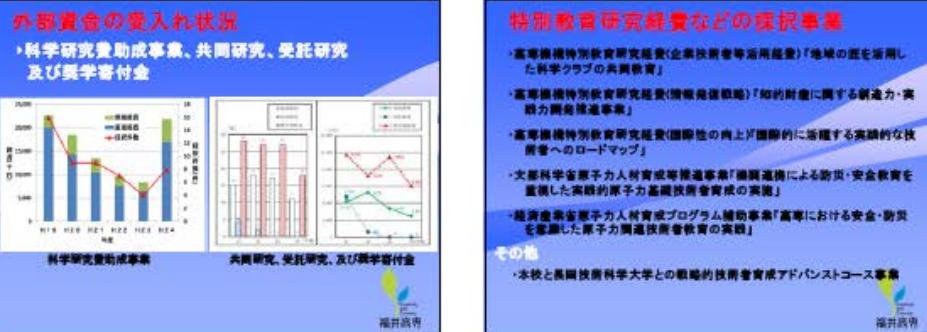
- 本科生へのPR(既に実施中)
2年間一貫教育、授業料が安い
得意な専門分野の深化とその他の分野の吸収
学士申請・大学卒としての就職・大学院への進学
技術者資格(JABEE認定)
- 協定の充実 人の交流から
- エンジニアリング・デザイン教育の充実
創造デザイン演習、デザイン工学

今後の方策

- 国際化への対応
国際交流委員会との連携
- 研究レベルの向上
専攻科生の学会発表数を増やす

企画関係





改善課題・方策

・地域・社会貢献活動関係

本校の教育研究資源を公開講座や出前授業等を通して地域・社会に還元するためには、地域・社会からの要望を適切に把握する必要があり、これを踏まえて今後も継続して地域・社会の活性化等に寄与したい。

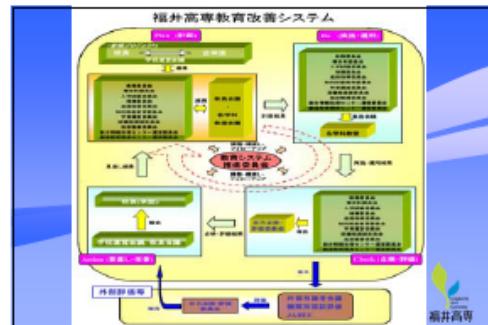
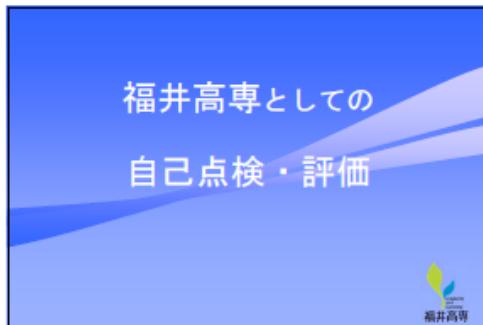
・外部資金の受け入れ関係

特に科学研究費補助金の獲得に向けては、豊富な獲得実績を有する学内外の経験者による講習会等の開催を実施し、採択件数・総額の増加を図りたい。

・施設整備関係

5か年整備計画、学生による教育環境アンケートや各委員会等からの意見・要望を踏まえ、継続して教育環境の改善・向上に努めたい。





自己点検評価委員会の構成員の変更

変更前:
校長を含む管理職も構成委員

変更後:
管理職を除く5名で構成

自己点検・評価報告書の変更

・構成:
全学的にに関する事項
各学科・教室等に関する事項
センター等に関する事項
委員会等に関する事項
自己点検評価委員会としての趣旨

・内容:
各部署での現状、点検・評価、改善課題・方策

全学的にに関する事項

・進路指導関係
インターンシップ、キャリアポートフォリオ、合同企業説明会など複数のキャリア教育を実践していることは評価できる。

・研究活動関係
8割の教員が十分な研究活動を行っているが、科研費の採択件数総額は改善傾向ではあるが、研究支援体制の構築が望まれる。

・国際交流関係
プリンスオブソンクラ大学(タイ)との交流協定の締結準備、海外インターンシップ、姉妹校との交流事業を通じ効果を上げている。

各学科・教室等に関する事項

・本科の専門5学科
基礎学力の定着とともに創成科目や実験実習科目など体験型科目を設け、実践的で国際化・高度情報化社会に対応できる技術者教育を行っていることが認められる。
また各学科は特色ある教育を実施し、進路先も関連業種・分野に就職・進学させ、進路指導は適正に行われている。

・一般科目教室
専門学科教員とネットワークを組み、意見交換を行いつつ教育改善につなげている。英語科では、校内で英検、TOEIC-IPを実施し「アウトプット重視」の活動は評価できる。

センター等に関する事項

・学生相談室

カウンセラーの来校回数を増やし、看護師を2人体制としてセンターの充実を図り、利用者層にも適切に対応している。

・創造教育開発センター

授業アンケートの分析、公開授業、FD研修など教育の質の改善に積極的に取り組んでいる。

・地域連携テクノセンター

各種コンテストを通じて地域貢献を行っているが、共同研究や受託研究の受入れ件数は減少傾向なため、さらなる情報発信が必要である。



委員会等に関する事項

・教育システム推進委員会

本校の教育のPDCAサイクルの調整を行い、教育の実施状況を把握し、教育システム推進に効果的な役割を果たしている。

・研究紀要委員会

本校の研究紀要の発行する役割を果たしているが、投稿件数の低迷の改善が必要である。

・安全衛生委員会

月1回校内巡視により健全な職場環境の維持を図り、産業医等と連携しながら教職員の健康管理を適切に行っている。



平成 24 年度「外部有識者会議」報告書

発 行 福井工業高等専門学校

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

電話 0778-62-1111

FAX 0778-62-2597